

## 国土交通省観光立国推進本部 とりまとめ

ビジット・ジャパン事業を開始して 10 周年を迎える節目の年である今年こそ、訪日外国人旅行者数 1000 万人を確実に達成することが至上命題である。さらに来年以降についても、観光立国の歩みを加速化していくことが必要である。

そのためには、観光庁だけでなく、国土交通省の総力をあげて、様々な隘路を突破するための施策を進めることが重要であり、その観点から、国土交通省観光立国推進本部ワーキンググループ（以下、「WG」という。）においては、現場や関係者の方々からご意見等を伺うとともに、関係局による議論を 5 回にわたり実施した。

これまでの議論を踏まえ、次のとおり「オール国土交通省」としての施策をとりまとめる。

### <取組の考え方>

日本について、外国人旅行者に、

- ①知ってもらおう（外国人に「日本」をよく知ってもらい、「行きたい」きっかけをつくる）
- ②来てもらおう（「行きたい」と思った外国人旅行者に、実際に日本に来てもらおう）
- ③満足してもらおう（リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる）
- ④人と知恵、更には投資を惹きつける（国際会議等の誘致や投資の促進を図ることにより、多くの人や優れた知見を日本に呼び込むことが重要であり、それぞれの段階に存在する隘路を打開するための施策を効果的に講じる必要がある。

このため、社会資本整備分野、交通分野を幅広く所管する国土交通省の特性を最大限に活用することにより、その総合力を活かす。

特に、とりまとめにある新たな施策やこれまでの施策の改善・強化（施策内容の赤い★印）に取り組むとともに、このために必要な予算の確保に努めることとする。

さらに、WGの議論において、関係者からビザの要件緩和、出入国手続の迅速化、地域における多言語表記の改善等、国土交通省のみでは解決できない課題についても強いご意見、ご要請が数多く寄せられた。これらについては、観光立国推進閣僚会議の枠組を活用し、関係省庁に強く働きかけ、政府一体となってその実現を図ることとする。

## ＜具体的な取組＞

### 1. 知ってもらう

（外国人に「日本」をよく知ってもらい、「行きたい」きっかけをつくる）

訪日旅行の一層の拡大に向けて、まず観光庁自らがビジット・ジャパン事業 10 年間の取組を踏まえ、さらなるステップアップを図る。

また、オープンスカイと戦略的に連動させた効果的な訪日プロモーションの展開、国土交通省の国際部門のノウハウの活用等、国土交通省としてなしうる施策を総動員する。

#### 【具体策】

- ・ ビジット・ジャパン事業 10 周年を迎えてのステップアップ
- ・ オープンスカイと戦略的に連動させた効果的な訪日プロモーションの展開
- ・ 国際部門による情報発信（「あなたの観光コンシェルジュ」プロジェクト）
- ・ 道産品輸出拡大と併せた観光情報の発信

## 2. 来てもらう

(「行きたい」と思った外国人旅行者に、実際に日本に来てもらう)

旅行先としての日本に対するネガティブなイメージとして、旅行コストやビザ要件の問題が挙げられている。

訪日旅行者数の更なる増加を図るためには、ビザ要件の緩和、首都圏空港の機能強化、LCC及びビジネスジェットの参入促進の取組、低廉な宿泊施設の周知等により、訪日旅行者を円滑に受け入れることが重要である。

### 【具体策】

- ・ビザ要件の緩和
- ・首都圏空港の機能強化
- ・LCC及びビジネスジェットの参入促進
- ・低廉な宿泊施設の周知
- ・クルーズの振興

## 3. 満足してもらう

(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)

訪日外国人旅行者が安心・快適に旅行し、リピーターとして再訪し、周りの人にも訪日を勧めってもらうためには、訪日外国人旅行者にとって移動しやすく、滞在しやすい環境の整備を図るとともに、魅力ある観光地域づくりを進める必要がある。

### 【具体策】

#### (1) 出入国手続の改善

- ・出入国手続きの迅速化・円滑化

#### (2) 移動しやすい環境の整備

- ・交通モードを通じた快適・円滑な移動のための環境整備

- ・バス・タクシー等を活用したインバウンド観光の促進
- ・空港アクセスの改善
- ・観光立国を支える地域交通関連施策の展開
- ・宅配便運送サービスを利用した「手ぶら観光」の促進

### (3) 滞在しやすい環境の整備

- ・観光産業のレベルアップ
- ・観光案内所のネットワーク化と周知
- ・道の駅、S A・P Aの観光機能の強化
- ・外国語案内表示等の充実
- ・地図データを活用した観光振興
- ・I C Tを活用した歩行者移動支援の取組
- ・不動産関係事業者との協議会の設置
- ・気象情報の利活用推進
- ・ムスリム旅行者への対応
- ・海外発行クレジットカードを利用可能なA T Mの情報の周知

### (4) 魅力ある観光地域づくり

- ・地域の観光ポテンシャルの最大化
- ・インフラツーリズムの推進等
- ・インフラプロジェクトと連動した観光振興（インフラプロジェクトの進捗にあわせたまちづくりやプロモーションの展開）
- ・大都市圏の国際競争力の強化（首都圏空港の機能強化、空港アクセスの改善、都市再生の推進、国際会議誘致等関連施策の有機的連携）
- ・景観の改善
- ・地域の魅力を活かした観光まちづくり
- ・街並み環境の整備と観光振興の連携強化
- ・河川空間を利用したまちなぎわいの創出
- ・海洋観光の振興

- ・ 離島交付金の積極的活用
- ・ フェリーの利用促進
- ・ レンタサイクルの利用促進

#### 4. 人と知恵、更には投資を惹きつける

(国際会議等の誘致や投資の促進を図ることにより、多くの人や優れた知見を日本に呼び込む)

国際会議等のMICEの誘致・開催の推進は、海外の人と知恵を我が国に呼び込む重要なツールであり、ビジネス機会の創出・イノベーションの創出や地域への大きな経済効果を生み出し、都市の競争力・ブランド力を向上するといった幅広い意義を有する。

しかしながら、近年、韓国・中国・シンガポールその他のアジア諸国がMICE誘致の取組を強化しており、誘致競争は我が国にとって一層厳しくなりつつある。

海外競合先との誘致競争に打ち勝つため、国際会議等のMICE分野の国際競争力強化を図る。

##### 【具体策】

- ・ 国際会議等のMICE誘致を通じた我が国の国際競争力強化

- ・ グローバルレベルのMICE都市の育成
- ・ 国や都市の戦略実現ツールとしてのMICEの活用
- ・ 大学、産業界等との連携
- ・ 国を挙げたオールジャパンの誘致体制構築
- ・ 文化施設・公共空間等を利用したイベントの活性化  
(ユニークベニユーの整備)
- ・ 運輸事業者との連携
- ・ ミーティング・インセンティブ誘致の推進
- ・ MICE開催地としての都市機能強化
- ・ JETROの訪日投資誘致との連携

## **(参考) 現場や関係者の方々からの主な意見**

### **○プロモーション**

- ・国を挙げた対応が必要
- ・双方向観光拡大を目指し、戦略的なオールジャパン訪日誘致活動を実行
- ・訪日プロモーション手法の改革と発信

### **○M I C E**

- ・M I C Eの受入環境整備（大型国際会議場・展示場施設等の整備）
- ・国際会議等のM I C E分野の国際競争力強化（M I C E受入環境の更なる整備と海外プロモーション強化）

### **○ビザの発給要件の緩和・出入国手続きの迅速化・円滑化**

- ・訪日観光ビザ要件の韓国並みの緩和
- ・出入国手続の迅速化・円滑化（入国審査の時間短縮、特設レーン設置）
- ・C I Q所要時間の縮減と国際会議等ビジネス旅客への優先入国審査の検討
- ・空港の容量拡大

### **○交通アクセスの改善**

- ・空港＝市内間公共交通アクセスのサービス拡充のための環境整備
- ・地方へ外国人を送り込む二次交通の整備

### **○その他**

- ・観光予算強化
- ・通信(W i -F i)サービスの拡充のための環境整備
- ・ボランティア・留学生の観光ガイド活用や多言語化による地域受入体制強化
- ・外国人向け表示案内、接遇の改善（交通・宿泊施設、博物館等各種施設）
- ・免税手続の改善